

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！

Sodick 新サービスカー運用開始

リモートオフィス仕様の新サービスカー採用 コロナ禍の接触機会低減に加え、車内業務環境整備 労働時間短縮、ワークライフバランス(WLB)を推進

より充実したサービス 動くオフィスが始動

ソディックは、リモートオフィスとしても活用可能な新サービスカーを5月下旬より10台(順次拡大予定)運用を開始する。

同サービスカーは、日産の小型商用車「NV200」をベースにしたもので、リモートワーク用の机と椅子を後部座席スペースに設置している。小型プリンタやノートパソコンを置いて通常のオフィス同様の環境で作業をすることができる。走行時に自動充電されるオフィス機器向け専用バッテリーを搭載し、フル充電時には約10時間のパソコン作業が可能。

今回のリモートオフィス仕様の新サービスカー導入は、コロナ禍における接触機会低減や業務効率化を目的としたもので、車内で快適に業務を行える環境を整えることで、労働時間を短縮し、

ワークライフバランス(WLB)の推進に寄与していく。

新サービスカー 導入背景と概要

ソディックは、企業イメージ向上と安全運転への意識向上を目的として、2020年より、サービスカーのボディを先進的なデザインに刷新している。同時に、使いやすい可変性荷室の採用や、コロナ禍とともに定着してきた新しい働き方である「リモートワーク」に対応すべく、移動先車内でのパソコン作業を想定したコンセプトカーの開発を進めてきた。

今回の新サービスカー導入にあたっては、同社の重要施策「サービスの質向上」の一環である、“キレイに整理整頓されている荷室は、ユーザーへのサービス向上につながる”という考え方をベースに、実際に運用する現場の社員の意見を積極的に取り入れた。重



い荷物の積込・積出時の負担を軽減する低床設計を採用したほか、また、放電加工機、MC、射出成形機、食品機械の部品や工具、検査機器など、大小さまざまな荷物に対応できる「可変性荷室」を設置した。さらに荷室は3段に仕切られ、各段の棚板を2分割することもできる仕様で、寸法の異なる荷物の積載がスムーズにできる。

同社は、今後、新サービスカーを実際に利用したサービススタッフの意見・要望を取り入れながら、さらなる改良を図るとともに、運用台数の拡大も進める予定。そして、「サービスの事業化」や「個客満足度を向上させ競争優位性を強固なものとする」といった事業方針を具体的な施策を通じ推進することで、企業価値向上につなげていく。



運転席の後ろにあるリモートオフィス空間。作業机の下に専用バッテリーを設置し、快適に業務を行うことが可能。



さまざまなサイズに対応できる可変性荷室。低床設計により重い荷物の積込時の負担を軽減。